

(様式第 10)

鳥大医事第 16-1 号
令和 3 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人鳥取大学
学 長 中 島 廣 光 (公印省略)

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
氏 名	国立大学法人鳥取大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

鳥取大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地1	電話 (0859) 33 - 1111
-------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科	
5神経内科 ⑥血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
⑨感染症内科 ⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪リウマチ科	
診療実績	
内分泌内科及び代謝内科で提供される医療は内分泌代謝内科にて、神経内科で提供される医療は脳神経内科にて提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
①呼吸器外科 5血管外科	②消化器外科 ⑥心臓血管外科
3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 ⑧小児外科
診療実績	
外科で提供される医療は外科系各診療にて、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療は乳腺内分泌外科にて提供している。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科（歯科口腔外科）	
歯科の診療体制	
本院は歯科医師を有する特定機能病院である。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1内分泌代謝内科	2膠原病内科	3乳腺内分泌外科	4頭頸部外科	5ペインクリニック外科
6薬物療法内科	7形成外科	8腫瘍内科	9脳神経小児科	10病理診断科
11神経病理診断科	12リハビリテーション科	13脳神経内科	14	
15	16	17	18	19
				20
				21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	2床	6床	0床	649床	697床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	324人	74人	381.8人	看 護 補 助 者	66人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	13人	1人	13.8人	理 学 療 法 士	20人	臨床検査技師	57 人
薬 剤 師	55人	0人	55人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0 人
助 産 師	56人	0人	56人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	859人	15人	869.1人	臨 床 工 学 士	24人	医療社会事業従事者	12 人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	7 人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	300 人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	42人	そ の 他 の 職 員	44 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	53人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	34人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精 神 科 専 門 医	7人	放射線科専門医	13人
小 児 科 専 門 医	30人	脳神経外科専門医	6人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整形外科専門医	12人
泌尿器科専門医	10人	麻 酔 科 専 門 医	9人
産婦人科専門医	15人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	228人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (原田 省) 任命年月日 平成29年 4月 1日

医療事故防止等対策委員会 委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	560.5人	9.7人	570.2人
1日当たり平均外来患者数	1341.9人	75.3人	1417.3人
1日当たり平均調剤数	1276.8剤		
必要医師数	138人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	20人		
必要（准）看護師数	334人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	621 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 26床 心電計 有・無
			人工呼吸装置 有・無 心細動除去装置 有・無
			その他の救急蘇生装置 有・無 ペースメーカー 有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 321 m ² [移動式の場合] 台数 17 台		病床数 26床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 28 m ² [共用室の場合] 共用する室名		
化学検査室	453.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、化学発光酵素免疫測定装置、電気化学発光免疫測定装置
細菌検査室	97.2 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動同定感受性分析装置、血液培養装置、自動細菌同定検査装置
病理検査室	93.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置、自動染色装置、バーチャル・スライド方式による遠隔病理画像診断システム、液状処理細胞診システム、凍結組織切片作製装置
病理解剖室	90.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理解剖台、臓器保管庫
研究室	1,102.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 中央実験台、フリーザー、ドラフトチャンバー等
講義室	406.0 m ²	鉄筋コンクリート	室数 2 室 収容定員 366人
図書室	1,635 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室 蔵書数 708,799 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		87.2%	逆紹介率		94.4%
算出根拠	A：紹介患者の数			10,636人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			14,956人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			3,180人	
	D：初診の患者の数			15,828人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
福田 誠司	国立大学法人 島根大学医学 部附属病院 医療安全管理 部 教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
中村 寿夫	中村法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	無	1
前田 純子	NPO法人 岡山 SP 研究会 代表		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院のホームページ及び大学のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	19人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	4	56 ベーチェット病	29
2 筋萎縮性側索硬化症	29	57 特発性拡張型心筋症	49
3 脊髄性筋萎縮症	4	58 肥大型心筋症	7
4 原発性側索硬化症	0	59 拘束型心筋症	3
5 進行性核上性麻痺	29	60 再生不良性貧血	11
6 パーキンソン病	142	61 自己免疫性溶血性貧血	2
7 大脳皮質基底核変性症	6	62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8 ハンチントン病	2	63 特発性血小板減少性紫斑病	26
9 神経有棘赤血球症	0	64 血栓性血小板減少性紫斑病	1
10 シャルコー・マリー・トゥース病	3	65 原発性免疫不全症候群	2
11 重症筋無力症	75	66 IgA 腎症	27
12 先天性筋無力症候群	0	67 多発性嚢胞腎	16
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	49	68 黄色靱帯骨化症	12
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	10	69 後縦靱帯骨化症	40
15 封入体筋炎	1	70 広範脊柱管狭窄症	4
16 クロウ・深瀬症候群	0	71 特発性大腿骨頭壊死症	9
17 多系統萎縮症	19	72 下垂体性ADH分泌異常症	10
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	32	73 下垂体性TSH分泌亢進症	1
19 ライソゾーム病	6	74 下垂体性PRL分泌亢進症	14
20 副腎白質ジストロフィー	1	75 クッシング病	4
21 ミトコンドリア病	3	76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22 もやもや病	24	77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23 プリオン病	0	78 下垂体前葉機能低下症	62
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合)	0
25 進行性多巣性白質脳症	0	80 甲状腺ホルモン不応症	0
26 HTLV-1関連脊髄症	2	81 先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27 特発性基底核石灰化症	0	82 先天性副腎低形成症	1
28 全身性アミロイドーシス	13	83 アジソン病	0
29 ウルリッヒ病	0	84 サルコイドーシス	45
30 遠位型ミオパチー	1	85 特発性間質性肺炎	38
31 ベスレムミオパチー	1	86 肺動脈性肺高血圧症	11
32 自己食空腔性ミオパチー	0	87 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
34 神経線維腫症	25	89 リンパ管筋腫症	2
35 天疱瘡	13	90 網膜色素変性症	11
36 表皮水疱症	0	91 バッド・キアリ症候群	4
37 膿疱性乾癬(汎発型)	7	92 特発性門脈圧亢進症	1
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93 原発性胆汁性肝硬変	34
39 中毒性表皮壊死症	1	94 原発性硬化性胆管炎	2
40 高安動脈炎	18	95 自己免疫性肝炎	18
41 巨細胞性動脈炎	3	96 クローン病	39
42 結節性多発動脈炎	8	97 潰瘍性大腸炎	96
43 顕微鏡的多発血管炎	26	98 好酸球性消化管疾患	1
44 多発血管炎性肉芽腫症	8	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	5	101 腸管神経節細胞減少症	0
47 パージャール病	5	102 ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103 CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	146	104 コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	64	105 チャージ症候群	0
51 全身性強皮症	63	106 クリオビリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	24	107 若年性特発性関節炎	9
53 シェーグレン症候群	30	108 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	0
54 成人スチル病	14	109 TNF受容体関連周期性症候群	0
55 再発性多発軟骨炎	0	110 非典型溶血性尿毒症症候群	0
		ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113 筋ジストロフィー	9	163 特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165 肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	2	166 弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	0	167 マルフアン症候群	6
118 脊髄腫瘍	0	168 エーラス・ダンロス症候群	0
119 アイザックス症候群	1	169 メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	1
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	174 那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	1	177 ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179 ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ビクスラー症候群	0
135 アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0	186 ロスムンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0	187 歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウェルナー症候群	0
142 ミオクロニー欠伸てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 ブラダー・ウィリ症候群	2
144 レノックス・ガストー症候群	0	194 ソトス症候群	0
145 ウェスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	1
146 大田原症候群	0	196 ヤング・シン普森症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェバー症候群	0	207 総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	5	208 修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0	209 完全大血管転位症	1
160 先天性魚鱗癬	0	210 単心室症	1

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
211 左心低形成症候群	0	272 進行性骨化性線維異形成症	0
212 三尖弁閉鎖症	0	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	274 骨形成不全症	0
214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	275 タナトフォリック骨異形成症	0
215 ファロー四徴症	3	276 軟骨無形成症	0
216 両大血管右室起始症	1	277 リンパ管腫症/ゴーンハム病	0
217 エプスタイン病	2	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
218 アルポート症候群	0	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
219 ギャロウェイ・モフト症候群	0	280 巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
220 急速進行性糸球体腎炎	3	281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
221 抗糸球体基底膜腎炎	0	282 先天性赤血球形成異常性貧血	0
222 一次性ネフローゼ症候群	16	283 後天性赤芽球癆	1
223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	284 ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
224 紫斑病性腎炎	2	285 ファンconi貧血	0
225 先天性腎性尿崩症	0	286 遺伝性鉄芽球性貧血	0
226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	287 エプスタイン症候群	0
227 オスラー病	3	288 自己免疫性出血病XIII	1
228 閉塞性細気管支炎	0	289 クロンカイト・カナダ症候群	0
229 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	290 非特異性多発性小腸潰瘍症	0
230 肺動脈低換気症候群	0	291 ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸	0
231 $\alpha 1$ -アンチトリプシン欠乏症	0	292 総排泄腔外反症	0
232 カーニー複合	0	293 総排泄腔遺残	0
233 ウォルフラム症候群	0	294 先天性横隔膜ヘルニア	0
234 ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	295 乳幼児肝巨大血管腫	0
235 副甲状腺機能低下症	0	296 胆道閉鎖症	0
236 偽性副甲状腺機能低下症	0	297 アラジール症候群	0
237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	298 遺伝性膝炎	0
238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	299 囊胞性線維症	0
239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	300 IgG4関連疾患	6
240 フェニルケトン尿症	1	301 黄斑ジストロフィー	0
241 高チロシン血症1型	0	302 レーベル遺伝性視神経症	0
242 高チロシン血症2型	0	303 アッシュャー症候群	0
243 高チロシン血症3型	0	304 若年発症型両側性感音難聴	0
244 メーブルシロップ尿症	0	305 遅発性内リンパ水腫	0
245 プロピオン酸血症	0	306 好酸球性副鼻腔炎	32
246 メチルマロン酸血症	0	307 カナバン病	0
247 イソ吉草酸血症	0	308 進行性白質脳症	0
248 グルコーストランスポーター1欠損症	0	309 進行性ミオクロームステんかん	0
249 グルタル酸血症1型	0	310 先天異常症候群	0
250 グルタル酸血症2型	0	311 先天性三尖弁狭窄症	0
251 尿素サイクル異常症	0	312 先天性僧帽弁狭窄症	0
252 リジン尿性蛋白不耐症	0	313 先天性肺静脈狭窄症	0
253 先天性葉酸吸収不全	0	314 左肺動脈右肺動脈起始症	0
254 ポルフィリン症	0	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0
255 複合カルボキシラーゼ欠損症	0	316 カルニチン回路異常症	0
256 筋型糖原病	0	317 三頭酵素欠損症	0
257 肝型糖原病	0	318 シトリン欠損症	0
258 ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
260 シトステロール血症	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
261 タンジール病	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
262 原発性高カイロミクロン血症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
263 脳腫黄色腫症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
264 無Bリボタンパク血症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
265 脂肪萎縮症	0	326 大理石骨病	0
266 家族性地中海熱	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
267 高IgD症候群	0	328 前眼部形成異常	0
268 中條・西村症候群	0	329 無虹彩症	1
269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症(旧病名(先天性気管狭窄症))	0
270 慢性再発性多発性骨髓炎	0	331 特発性多中心性キャッスルマン病	2
271 強直性脊椎炎	11	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	0
		333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間配置加算	・精神科急性期医師配置加算
・看護補助加算	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料3
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料4
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・精神病棟入院時医学管理加算	・特定集中治療室管理料3
・精神科身体合併症管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・栄養サポートチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料1
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・ 糖尿病合併症管理料	・ 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 遺伝学的検査
・ がん患者指導管理料イ	・ 骨髄微小残存病変量測定
・ がん患者指導管理料ロ	・ BRCA1/2遺伝子検査
・ がん患者指導管理料ハ	・ がんゲノムプロファイリング検査
・ がん患者指導管理料ニ	・ 先天性代謝異常症検査
・ 外来緩和ケア管理料	・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 検体検査管理加算(Ⅰ)
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 検体検査管理加算(Ⅳ)
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 国際標準検査管理加算
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 遺伝カウンセリング加算
・ 院内トリアージ実施料	・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ 外来放射線照射診療料	・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ ニコチン依存症管理料	・ 胎児心エコー法
・ がん治療連携計画策定料	・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ 外来排尿自立指導料	・ ヘッドアップティルト試験
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 人工臓臓検査、人工臓臓療法
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 脳波検査判断料1
・ 薬剤管理指導料	・ 終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・ 神経学的検査
・ 医療機器安全管理料1	・ 補聴器適合検査
・ 医療機器安全管理料2	・ ロービジョン検査判断料
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ コンタクトレンズ検査料1
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ 在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 内服・点滴誘発試験
・ 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 経気管支凍結生検法
・ 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ 画像診断管理加算1

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 画像診断管理加算2	・ 四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・ ポジトロン断層撮影	・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 椎間板内酵素注入療法
・ 外傷全身CT加算	・ 腫瘍脊椎骨全摘術
・ 心臓MRI撮影加算	・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・ 乳房MRI撮影加算	・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・ 外来化学療法加算1	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 連携充実加算	・ 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・ 無菌製剤処理料	・ 角膜移植術(内皮移植加算)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 羊膜移植術
・ 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・ 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 人工中耳植込術
・ 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ 摂食嚥下支援加算	・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型(拡大副鼻腔手術)
・ がん患者リハビリテーション料	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・ 精神科作業療法	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)及び下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 医療保護入院等診療料	・ 内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ エタノールの局所注入(甲状腺)	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ エタノールの局所注入(副甲状腺)	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ 導入期加算1	・ 乳癌悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 磁気による膀胱等刺激法	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ CAD/CAM冠	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 歯科技工加算1及び2	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ センチネルリンパ節加算	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)

施設基準の種類	施設基準の種類
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下筋層切開術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
胸腔鏡下弁形成術	体外衝撃波胆石破碎術
胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下肝切除術
胸腔鏡下弁置換術	体外衝撃波膵石破碎術
胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
経皮的中隔心筋焼灼術	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	同種死体腎移植術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	生体腎移植術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	膀胱水圧拡張術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
補助人工心臓	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
	胎児胸腔・羊水腔シャント術
	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・ 輸血管管理料Ⅰ	・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
・ 輸血適正使用加算	・ 体外照射呼吸性移動対策加算
・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・ 定位放射線治療
・ 歯周組織再生誘導手術	・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・ 画像誘導密封小線源治療加算
・ 麻酔管理料(Ⅰ)	・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・ 麻酔管理料(Ⅱ)	・ 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・ 放射線治療専任加算	・ 病理診断管理加算2
・ 外来放射線治療加算	・ 悪性腫瘍病理組織標本加算
・ 高エネルギー放射線治療	・ 口腔病理診断管理加算2
・ 1回線量増加加算	・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 強度変調放射線治療(IMRT)	・ 歯科矯正診断料
	・ 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・骨髄微小残存病変量測定	・
・前眼部三次元画像解析	・
・遺伝学的検査(包括的なゲノムプロファイル検査)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年15～20回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 13 例 / 剖検率 2.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Galectin-3による生体内幹細胞障害の機序解明と治療効果の検証	今村 武史	薬物療法内科	5,200,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
算数障害中核的症候への早期介入プログラムとトレーニングアプリの効果	大羽 沢子	ワークライフバランス支援センター	1,820,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経可塑性を用いた神経変性疾患の臨床的指標の確立	花島 律子	脳神経内科	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
筋萎縮性側索硬化症の神経心理・神経放射線学的検討(言語評価法の開発を含めて)	渡辺 保裕	脳神経内科	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
初発膠芽腫のベシズマブ治療効果に関与する遺伝子と画像評価法の確立	神部 敦司	脳神経外科	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超音波ドプラ法による新しい声帯病変の良悪性診断法の確立	福原 隆宏	頭頸部診療科群	2,730,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大網と脂肪由来幹細胞を用いた新たな乳房再建の試み	八木 俊路朗	形成外科	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
次世代シーケンサーによる小児不応性血球減少症の成因解明と新規診断・治療への挑戦	奥野 啓介	小児科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
革新的な医療機器開発の基盤となる熱設計指針の提案とその有用性評価	上原 一剛	新規医療研究推進センター	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
健康寿命の延伸に向けた再生医療技術によるヒト心筋細胞の老化関連分泌現象の解明	三明 淳一郎	薬物療法内科	2,080,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝転移ドライバー分子AMIGO2を活用した癌肝転移に対する新規治療法の開発	谷尾 彬充	高次集中治療部	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
経口内視鏡的食道筋層生検術によるアカシア発症機序の解明	池淵 雄一郎	第二内科診療科群	650,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃癌におけるIgA産生細胞の検討	植嶋 千尋	第一外科診療科群	2,210,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
染色体工学技術を用いた膵がんにおける新規テロメラーゼ抑制遺伝子の同定と機能解析	柳生 拓輝	第一外科診療科群	2,210,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
選択的オートファジーを介するチロシンキナーゼ受容体TYRO3の膵癌進展機構の解明	宮内 亘	第一外科診療科群	2,470,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
合成レチノイドは新たな子宮内膜症治療薬として有効か	東 幸弘	女性診療科群	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染による角膜上皮細胞の機能変換の病態解明	春木 智子	眼科	2,080,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
フコイダンによる脂肪幹細胞再生能促進を介した新規下肢虚血治療の開発	森田 真紀	形成外科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
IGF-1依存的ヒト軟骨細胞の増殖・分化制御機構の解明	藤本 正伸	小児科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
根治的内視鏡治療可能な早期食道癌の死因に関するがん登録を利用したコホート研究	河口 剛一郎	第二内科診療科群	910,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
感染性角膜炎における抗炎症治療へ向けての分子解析	井上 幸次	眼科	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
DNA損傷修復能による小細胞肺癌に対する個別化医療の確立	牧野 晴彦	第三内科診療科群	650,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
予後不良の甲状腺癌を識別する血清中癌特異的自己抗体検出法の開発	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自然リンパ球とTLRに着目したアトピー性皮膚炎におけるバリア機能異常の制御	杉田 和成	皮膚科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
重症心不全に対する脂肪細胞由来再生細胞シートを用いた心筋再生療法の開発	西村 元延	心臓血管外科	650,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生物発光モデルマウスを用いた子宮内膜症治療標的分子の探索	谷口 文紀	女性診療科群	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新たな選択的Estrogen受容体調節薬を用いた子宮内膜症治療の開発	原田 省	女性診療科群	910,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
グローバルとローカルを統合する新規薬剤耐性(AMR)サーベイランスシステムの構築	千酌 浩樹	感染制御部	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ウイルス性肝細胞癌の早期診断の徹底と非B非C型肝炎細胞癌のサーベイランスへの挑戦	岡野 淳一	第二内科診療科群	910,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
手術用マスタースレイブ型ロボットにおける精密な力覚伝達システムの開発	森實 修一	泌尿器科	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
中枢神経機能障害に着目した福山型筋ジストロフィーの治療法開発研究	岡崎 哲也	遺伝子診療科	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
効果的心不全栄養療法に向けたカルニチン欠乏・ダイナペニア・横隔膜機能障害連関解明	山本 一博	第一内科診療科群	1,560,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺扁平上皮癌患者の不良予後に関するMaspinの分子機構の解明	梅北 善久	病理診療科群	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
病院における災害時業務継続計画の充実による被害軽減に関する研究	本間 正人	救命救急センター	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規ドラッグデリバリーシステムを用いたKv7チャネル開口薬膀胱内注入の確立	本田 正史	泌尿器科	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
地域高齢糖尿病患者の「病い」の認知と療養行動障壁の関連について	谷口 晋一	総合診療外来	2,210,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
PHD阻害剤を用いたがん微小環境の改善による頭頸部癌新規治療戦略の開発	小山 哲史	頭頸部診療科群	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
薬剤耐性克服を目指した新規治療法の開発	穴戸 裕二	第一外科診療科群	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
I-131内用療法後の唾液腺障害に対してビタミンEは有効か?	北川 寛	放射線治療科	1,040,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計	39件
	59,280,000円

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
てんかん性スパズムの発作時脳波解析による脳梁離断術に対する予後予測因子の解明	金井 創太郎	脳神経小児科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
lncRNAによる癌幹細胞制御メカニズムに基づいた肝細胞癌治療・診断法の開発	坂口 弘美	放射線治療科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
食道癌に対するボルフィノーム及びペルテポルフィンを用いた光線力学的治療の基盤研究	斧山 巧	第二内科診療科群	780,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質性肺炎におけるアンチセンス長鎖ノココーディングRNAの機能解析	高田 美樹	第三内科診療科群	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ウロモジュリンによる糸球体濾過の調節と新たな腎保護メカニズムの解明	高田 知朗	第二内科診療科群	1,690,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CRISPR-Cas9を用いた膝痛のR-spondin-LGRシグナル機能解析	渡邊 淨司	第一外科診療科群	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
早期浸潤性肺腺癌の充実/微小乳頭亜型における分子生物学的プロファイル解析	城所 嘉輝	胸部外科診療科群	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肺高悪性度神経内分泌癌のPhenotype分類と新規分子標的治療開発	春木 朋広	胸部外科診療科群	2,210,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性肺傷害に対する新規インフラマソームシグナル経路を介した傷害保護効果の検討	倉敷 達之	手術部	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
集中治療後の認知・精神障害におけるxCTを介した酸化ストレスとグルタミン酸の制御	北川 良憲	麻酔診療科群	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経栄養因子高発現間葉系幹細胞移植によるALS治療の試み	本多 直人	脳神経内科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
関節軟骨の内軟骨性骨化による菲薄化の証明と変形性関節症との関連性	柳樂 慶太	整形外科	390,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間頻尿を規定する膀胱時計遺伝子の決定	木村 有佑	泌尿器科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超音波診断装置を用いた唾液腺腫瘍の3D血流診断法の確立	松田 枝里子	頭頸部診療科群	520,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新しい耳管機能検査	矢間 敬章	頭頸部診療科群	1,170,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
白内障術後眼内炎対策の戦略的分子解析	佐々木 慎一	眼科	1,430,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
口腔扁平上皮癌の予後とMaspinの細胞質発現およびその役割	川崎 誠	歯科口腔外科	1,950,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
患者らにおける単一遺伝子疾患遺伝学的検査の理解促進のための教育プログラム構築	松浦 香里	遺伝子診療科	480,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
乳がん患者の血中バルボシクリン濃度における個人差の遺伝的要因解析	小玉 菜央	薬剤部	480,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
国土強靱化計画をふまえ、地域の実情に応じた災害医療提供体制に関する研究	本間 正人	救命救急センター	300,000	(補委) 厚生労働省 地域医療基盤強化促進事業
骨粗鬆症の予防及び検診提供体制の整備のための研究	萩野 浩	リハビリテーション部	600,000	(補委) 厚生労働省 循環器疾患・糖尿病等生活習慣
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	吉田 雄一	皮膚科	1,000,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	前垣 義弘	脳神経小児科	300,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	花島 律子	脳神経内科	700,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	花島 律子	脳神経内科	700,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
ライゾノーム病、ペルオキシノーム病(副腎白質ジストロフィーを含む)における良質かつ適切な医療の実現に向けた体制の構築とその実装に関する研究	成田 綾	脳神経小児科	600,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
小児期・移行期を含む包括的対応を要する希少難治性肝胆膵疾患の調査研究	村上 潤	小児科	150,000	(補委) 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業
オンライン診療・遠隔医療や「非接触」を念頭に置いたICT化の中で医療機関が具備すべきサイバーセキュリティ対策や技術を踏まえたサイバーセキュリティ指針の策定	近藤 博史	医療情報部	4,649,000	(補委) 厚生労働省 厚生労働科学特別研究事業
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J-DREAMS)	山本 一博	第一内科診療科群	300,000	(補委) 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
クッシング症候群術後の至適補充療法の確立	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	100,000	(補委) 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究(NEJ030)	森田 正人	第三内科診療科群	22,000	(補委) 特定非営利活動法人North East Japan Study Group 受託研究費
実地臨床におけるエベロリムス溶出性ステント(XIENCE V TM)とシロリムス溶出性ステント(CYPHER SELECT TM +ステント)の有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験:長期追跡試験	山本 一博	第一内科診療科群	231,000	(補委) 一般財団法人生産開発科学研究所 受託研究費
COVID-19に関するレジストリ研究	千酌 浩樹	感染制御部	60,000	(補委) 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 受託研究費
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GP01)による自閉スペクトラム症(ASD)の診断能に関する多施設共同試験(開発統括・医師主導治験実施)	前垣 義弘	脳神経小児科	9,122,100	(補委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出(CS/SubCSエビデンス創出)	伊澤 正一郎	第一内科診療科群	130,000	(補委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発(新規SERMを用いた子宮内膜症治療の可能性)	原田 省	女性診療科群	1,500,000	(補委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
Niemann-Pick 病C型に対する遺伝子治療開発(AAVベクターによるライゾノーム病、Niemann-Pick病に対する遺伝子治療法開発)	成田 綾	脳神経小児科	2,600,000	(補委) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費

小計	37件
	48,074,100円

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
超高感度尿中微量蛋白質解析技術を用いた肺癌と膀胱癌の新規早期診断マーカー開発研究 (①肺癌検診におけるEIA診断キットの有用性の検討、②発がんハイリスク患者群での尿中蛋白質断片の早期診断における有用性の前方視的研究、③肺扁平上皮癌と小細胞肺癌の新規診断マーカーの開発研究)	阪本 智宏	第三内科診療科群	520,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
薬事申請をめざした治療法のない神経線維腫症1型の皮膚腫瘍に対する有効で安全な局所大量投与療法薬開発のための医師主導治験	吉田 雄一	皮膚科	2,405,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立: 薬事承認を目的とした第II相医師主導治験(ATLに対するTax標的樹状細胞ワクチン療法の医師主導治験の実施)	福田 哲也	血液内科	1,040,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究(ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がん患者を対象としたブリガチニブの多施設共同バスケット試験(医師主導治験)、遺伝子スクリーニング、コンパニオン診断薬の開発および臨床ゲノムデータベースの構築)	小谷 昌広	第三内科診療科群	390,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
EGFR 遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌におけるEGFR 阻害薬耐性機序(C797S 耐性変異)を克服する新規治療法の確立を目指した研究(医師主導治験・遺伝子スクリーニング・付随研究の実施)	阪本 智宏	第三内科診療科群	1,300,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
多系統萎縮症の革新的治療法の開発研究(第II相医師主導治験の実施)	花島 律子	脳神経内科	832,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
剖検脳・罹患組織を用いたマルチオミックス解析による神経変性タウオパチーの病態解明と創薬標的の同定	花島 律子	脳神経内科	1,170,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立(ライソゾーム病・副腎白質ジストロフィーの新生児マススクリーニングに関する調査研究)	成田 綾	成田 綾	325,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
進行性核上性麻痺と関連タウオパチーの患者レジストリと試料レポントリを活用した診療エビデンスの構築	花島 律子	脳神経内科	2,990,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究(医師主導治験・付随研究の実施)	阪本 智宏	第三内科診療科群	260,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発(小児C型慢性肝炎に対するDAA治療に関する研究)	村上 潤	小児科	273,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
運動学習に着目した新規脳機能評価法を活用したエビデンス創出(脊髄小脳変性症の臨床症状とリズム順応変化との対応)	花島 律子	脳神経内科	520,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
血液メタボローム解析による精神疾患の層別化可能な客観的評価法の確立と治療最適化への応用(うつ病関連血中物質の変化に着目した治療的介入のための双方向性研究)	岩田 正明	精神科	1,100,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
次世代シーケンサーによる網羅的がん関連遺伝子パネル解析を用いたHER2遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究(医師主導治験の実施)	阪本 智宏	第三内科診療科群	520,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究(中国地区における未診断疾患に対する診断体制の構築に関する研究)	前垣 義弘	脳神経小児科	5,200,000	補 ⑤	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 受託研究費
鳥取県ドクターカー運営事業費補助金	病院長 原田 省		2,759,000	補 委	鳥取県
鳥取県医師・看護職員の仕事と育児の両立応援事業補助金	病院長 原田 省		138,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス対策オンライン面会支援事業	病院長 原田 省		100,000	補 委	鳥取県
鳥取県オンライン診療等提供体制整備事業補助金	病院長 原田 省		2,589,000	補 委	鳥取県
鳥取県原子力発電等緊急時安全対策費補助金	病院長 原田 省		2,625,700	補 委	鳥取県
鳥取県がん専門医資格取得支援事業	病院長 原田 省		181,000	補 委	鳥取県
鳥取県がん専門医療従事者育成支援負担金	病院長 原田 省		118,000	補 委	鳥取県
鳥取県院内がん登録支援事業補助金	病院長 原田 省		1,131,000	補 委	鳥取県
鳥取県病連携強化支援事業補助金	病院長 原田 省		1,522,400	補 委	鳥取県
社会福祉施設等における新型コロナウイルス感染拡大予防対策推進事業補助金	病院長 原田 省		200,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス感染症対策施設整備費補助金	病院長 原田 省		95,230,000	補 委	鳥取県
周産期医療に関わる専門的スタッフの養成事業	病院長 原田 省		4,110,000	補 委	鳥取県

小計	27件
	129,549,100円

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
看護師の特定行為研修受講補助事業	病院長 原田 省		1,774,000	補 委	鳥取県
新人看護職員研修事業	病院長 原田 省		253,000	補 委	鳥取県
産科医等確保支援事業	病院長 原田 省		1,056,000	補 委	鳥取県
新生児医療担当医確保支援事業	病院長 原田 省		540,000	補 委	鳥取県
救急勤務医支援事業	病院長 原田 省		940,000	補 委	鳥取県
病院内保育所運営事業	病院長 原田 省		8,825,000	補 委	鳥取県
在宅医療推進のための看護師育成支援事業(T-Home Oriented Care:HOC)	病院長 原田 省		18,162,000	補 委	鳥取県
地域医療連携研修会開催支援事業	病院長 原田 省		133,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備 事業	病院長 原田 省		76,533,000	補 委	鳥取県
帰国者・接触者外来等設備整備事業	病院長 原田 省		9,304,000	補 委	鳥取県
感染症検査機関等設備整備事業	病院長 原田 省		10,945,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備事業	病院長 原田 省		159,559,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス感染症を疑う患者受入れのための救 急・周産期・小児医療体制確保事業 (ア)設備整備等事業	病院長 原田 省		14,856,000	補 委	鳥取県
新型コロナウイルス感染症を疑う患者受入れのための救 急・周産期・小児医療体制確保事業 (イ)支援金支給事業	病院長 原田 省		90,000,000	補 委	鳥取県
鳥取県新型コロナウイルス感染症入院病床確保事業費補 助金	病院長 原田 省		959,820,000	補 委	鳥取県
ドクターヘリ共同運航事業補助金	病院長 原田 省		21,427,000	補 委	関西広域連合
がん診療連携拠点病院機能強化事業	病院長 原田 省		7,261,000	補 委	厚生労働省
インフルエンザ流行期における新型コロナウイルス感染症 疑い患者を受け入れる救急・周産期・小児医療機関体制 確保事業	病院長 原田 省		26,000,000	補 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急 支援事業補助金	病院長 原田 省		265,500,000	補 委	厚生労働省
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制 確保支援補助金	病院長 原田 省		19,100,000	補 委	厚生労働省
看護師の特定行為に係る指定研修機関運営事業	病院長 原田 省		1,505,000	補 委	厚生労働省
国立大学病院における新型感染症対策高度医療人材養 成事業	病院長 原田 省		39,000,000	補 委	文部科学省
橋渡し研究戦略的推進プログラム	病院長 原田 省		3,730,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
次世代医療機器連携拠点整備等事業	病院長 原田 省		9,960,132	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計	24件
	1,746,183,132円
合計	127件
	1,983,086,332円

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Sugita K	皮膚科	Uncovering noncanonical autophagy in dermal dendritic cells in contact hypersensitivity: A key mechanism of immune tolerance	J Allergy Clin Immunol. 2020 May;145(5):1363-1364.	Others
2	Hara K, Matsunaga T, Fukumoto Y, et al.	第一外科診療科群	Successful preservation of the proximal stomach tube by evaluating blood flow using indocyanine green for gastric tube cancer: a case report	Surg Case Rep. 2020 Apr 26;6(1):85.	Case report
3	Okazaki T, Matsuura K, Kasagi N, et al.	遺伝子診療科	Duchenne muscular dystrophy-like phenotype in an LGMD21 patient with novel FKRP gene variants	Hum Genome Var. 2020 Apr 20;7:12.	Original Article
4	Hanaki T, Uchinaka E, Yagyu T, et al.	第一外科診療科群	A Novel Noninvasive Method for Predicting Liver Fibrosis by Quantifying the Estrangement of Indocyanine Green Retention Rate and Tc-99m-diethylenetriamine-penta-acetic Acid-galactosyl Human Serum Albumin Scintigraphy	In Vivo. 2020 May-Jun;34(3):1187-1193.	Original Article
5	Miyatani K, Miyauchi W, Kono Y, et al.	第一外科診療科群	Successful treatment of peritoneal recurrence after gastric cancer surgery with intravenous and intraperitoneal paclitaxel combined with S-1 chemotherapy: a case report	Surg Case Rep. 2020 May 1;6(1):88.	Case report
6	Sakaguchi T, Kinoshita H, Ikebuchi Y, et al.	第二内科診療科群	Next-generation laser-based photodynamic endoscopic diagnosis using 5-aminolevulinic acid for early gastric adenocarcinoma and gastric adenoma	Ann Gastroenterol. 2020 May-Jun;33(3):257-264.	Original Article
7	Hara K, Yamamoto M, Sakamoto T, et al.	第一外科診療科群	Small bowel stenosis after blunt abdominal trauma: a case report	Surg Case Rep. 2020 May 26;6(1):115.	Case report
8	Shimizu T, Tsutsumi R, Shimizu K, et al.	脳神経内科	Differential effects of thyrotropin releasing hormone (TRH) on motor execution and motor adaptation process in patients with spinocerebellar degeneration	J Neurol Sci. 2020 Aug 15;415:116927. (オンライン)	Original Article
9	Fujiwara K, Yazama K, Donishi R, et al.	頭頸部診療科群	C(6)-ceramide Inhibits the Motility of Anaplastic Thyroid Carcinoma Cells	Yonago Acta Med. 2020 Mar 23;63(2):95-98.	Original Article
10	Matsunaga T, Miyauchi W, Kono Y, et al.	第一外科診療科群	The Advantages of Robotic Gastrectomy over Laparoscopic Surgery for Gastric Cancer	Yonago Acta Med. 2020 May 18;63(2):99-106.	Original Article
11	Morimoto M, Honjo S, Sakamoto T, et al.	第一外科診療科群	Laparoscopically-Assisted Repair of a Small Bowel Perforation Secondary to Multiple Metastases of Undifferentiated Pleomorphic Sarcoma	Yonago Acta Med. 2020 Mar 18;63(2):122-126.	Original Article
12	Yagi S, Suyama Y, Fukuoka K, et al.	形成外科	Considering the Better Donor-side in Reconstruction of Composite Radius After Resection of Spindle Cell Sarcoma Using Free Fibular Osteocutaneous Flap: A Case Report	Yonago Acta Med. 2020 Apr 22;63(2):127-131.	Original Article
13	Burioka N, Yamamoto A, Morimoto M, et al.	第三内科診療科群	Health-Related Quality of Life in Patients on Home Oxygen Therapy with Telemonitoring	Yonago Acta Med. 2020 Apr 16;63(2):132-134.	Original Article
14	Kanatani M, Adachi T, Sakata R, et al.	脳神経内科	[A case of sporadic late-onset nemaline myopathy associated with myasthenia gravis positive for anti-titin antibody and anti-Kv1.4 antibody]	Rinsho Shinkeigaku. 2020 Jul 31;60(7):489-494.	Case report
15	Onoyama T, Fujii M, Isomoto H	第二内科診療科群	Useful face-protective shield "ORIGAMI" for gastrointestinal endoscopy during the COVID-19 pandemic	Dig Endosc. 2020 Sep;32(6):998.	Letter
16	Yamada H, Ohno K, Shiota M, et al.	脳神経小児科	Prevalence and clinical characteristics of children with medical complexity in Tottori Prefecture, Japan: A population-based longitudinal study	Brain Dev. 2020 Nov;42(10):747-755.	Original Article
17	Yamamoto K, Tsuchihashi-Makaya M, Kinugasa Y, et al.	第一内科診療科群	Japanese Heart Failure Society 2018 Scientific Statement on Nutritional Assessment and Management in Heart Failure Patients	Circ J. 2020 Jul 22;84(8):1408-1444.	Review
18	Iyama T, Takata T, Yamada K, et al.	第二内科診療科群	A novel method for assessing the renal biopsy specimens using an activatable fluorescent probe	Sci Rep. 2020 Jul 21;10(1):12094.	Original Article
19	Fujimoto M, Andrew M, Dauber A	小児科	Disorders caused by genetic defects associated with GH-dependent genes: PAPP2 defects	Mol Cell Endocrinol. 2020 Dec 1;518:110967. (オンライン)	Review
20	Kambe A, Nakada S, Nagao Y, et al.	脳神経外科	A dedifferentiated intracranial solitary fibrous tumor with osteosarcoma components: rapid tumor progression and lethal clinical course	Brain Tumor Pathol. 2020 Oct;37(4):165-170.	Case report

小計20件

21	Sakamoto T, Yagyu T, Uchinaka E, et al.	第一外科診療科群	Combined prognostic nutritional index ratio and serum amylase level during the early postoperative period predicts pancreatic fistula following pancreaticoduodenectomy	BMC Surg. 2020 Aug 6;20(1):178.	Original Article
22	Koyama S, Fujiwara K, Morisaki T, et al.	頭頸部診療科群	Efficacy of second and subsequent lines of chemotherapy for recurrent and metastatic head and neck cancer	Auris Nasus Larynx. 2021 Feb;48(1):161-165.	Original Article
23	Teramoto K, Okura T, Kondo H	医療情報部	Evaluation of Outcomes Using a Tablet-Based System to Support Glycemic Management Workflow Operations: A Retrospective Observational Study	J Med Syst. 2020 Aug 12;44(9):167.	Original Article
24	Kinugasa Y, Sota T, Ishiga N, et al.	第一内科診療科群	Home-based Inspiratory Muscle Training in Patients With Heart Failure and Preserved Ejection Fraction: A Preliminary Study	J Card Fail. 2020 Nov;26(11):1022-1023.	Letter
25	Sakamoto T, Yagyu T, Uchinaka E, et al.	第一外科診療科群	Sarcopenia as a prognostic factor in patients with recurrent pancreatic cancer: a retrospective study	World J Surg Oncol. 2020 Aug 22;18(1):221.	Original Article
26	Taniguchi F, Tokita Y, Ota I, et al.	女性診療科群	Efficacy of Tokishakuyakusan add-on therapy with low-dose oral contraceptive pills on endometriosis patients with dysmenorrhea	J Obstet Gynaecol Res. 2020 Nov;46(11):2280-2286.	Original Article
27	Sakamoto T, Yagyu Y, Uchinaka E, et al.	第一外科診療科群	Surgical Outcomes Following Early Drain Removal After Distal Pancreatectomy in Elderly Patients	In Vivo. 2020 Sep-Oct;34(5):2837-2843.	Original Article
28	Yamaga K, Kuwamoto S, Mukunoki D, et al.	整形外科	Successful Treatment with Denosumab of a Giant Cell Tumor of Bone in the Iliac Bone of an 84-Year-Old Man	Yonago Acta Med. 2020 Aug 20;63(3):228-233.	Original Article
29	Hanaki T, Yagyu T, Uchinaka E, et al.	第一外科診療科群	Avoidance of bile duct injury during laparoscopic liver cyst fenestration using indocyanine green: A case report	Clin Case Rep. 2020 Jun 10;8(8):1419-1424.	Case report
30	Nishikawa R, Honda M, Teraoka S, et al.	泌尿器科	Effects of nerve-sparing procedures on bowel function after robot-assisted radical prostatectomy: A longitudinal study	Int J Med Robot. 2020 Dec;16(6):1-10.	Original Article
31	Tanishima S, Mihara T, Takeda C, et al.	整形外科	Fast-Growing Cervical Juxtafacet Cyst Mimicking Epidural Hematoma: A Case Report	JBJS Case Connect. 2020 Jul-Sep;10(3):e20.00237.	Case report
32	Yoshida Y, Yamada N, Yamamoto O	皮膚科	Polypoidal Manifestation of Multiple Poromas: Possible Drug Involvement	Acta Derm Venereol. 2020 Oct 6;100(17):adv00287.	Letter
33	Ryohei Kato, Tomoyuki Ikeuchi, Katsuyuki, et al.	第三内科診療科群	Adult-onset Still's disease with concurrent thrombotic thrombocytopenic purpura: case report and literature review	BMJ Case Rep. 2020 Sep 28;13(9):e235786.	Review
34	Hagino H, Osaki M, Okuda R, et al.	リハビリテーション部	Recent trends in the incidence of hip fracture in Tottori Prefecture, Japan: changes over 32 years	Arch Osteoporos. 2020 Oct 2;15(1):152.	Original Article
35	Miyazaki D, Shimizu D, Fukushima A, et al.	眼科	Reduced steroid-induced intraocular pressure elevation in tacrolimus-treated refractory allergic ocular diseases	Jpn J Ophthalmol. 2020 Nov;64(6):568-576.	Original Article
36	Kurashiki T, Miyake T, Nakagami H, et al.	心臓血管外科	Prevention of Progression of Aortic Aneurysm by Peptide Vaccine Against Ang II (Angiotensin II) in a Rat Model	Hypertension. 2020 Dec;76(6):1879-1888.	Original Article
37	Kinugasa Y, Sota T, Ishiga N, et al.	第一内科診療科群	L-Carnitine supplementation in heart failure patients with preserved ejection fraction: a pilot study	Geriatr Gerontol Int. 2020 Dec;20(12):1244-1245.	Original Article
38	Taniguchi F, Wibisono H, Khine Y, et al.	女性診療科群	Animal models for research on endometriosis	Front Biosci (Elite Ed). 2021 Jan 1;13:37-53.	Original Article
39	Kurumi H, Isomoto H	第二内科診療科群	Current Topics in Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Cancers (Basel). 2020 Oct 9;12(10):2898.	Others
40	Yamamoto M, Hara K, Sugezawa K, et al.	第一外科診療科群	Disinfection with single or double usage of new antiseptic olanexidine gluconate in general surgery: a randomized study	Langenbecks Arch Surg. 2020 Dec;405(8):1183-1189.	Original Article
41	Yamada H, Tamasaki A, Oguri M, et al.	脳神経小児科	Frequent epileptic apnoea in a patient with Pitt-Hopkins syndrome	Epileptic Disord. 2020 Oct 1;22(5):673-677.	Original Article
42	Shimizu R, Honda M, Nishikawa R, et al.	泌尿器科	Complete response to chemotherapy in Burkitt's Lymphoma of the Bladder: A case report	Urol Case Rep. 2020 Jun 11;33:101298. (オンライン)	Case report
43	Matsuki Y, Matono T, Koda M, et al.	第二内科診療科群	Preablation three-dimensional ultrasonography can predict therapeutic effect and local tumor progression after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma	Eur J Radiol. 2020 Dec;133:109358. (オンライン)	Original Article
44	Ogoshi T, Yoshimiya M, Ichibakase H, et al.	救急科	Paravertebral compartment syndrome after exercise: a case report	J Med Case Rep. 2020 Nov 1;14(1):208.	Case report
45	Narai T, Watase R, Nakayama Y, et al.	歯科口腔外科	Establishment of human immortalized mesenchymal stem cells lines for the monitoring and analysis of osteogenic differentiation in living cells	Heliyon. 2020 Oct 31;6(10):e05398.	Original Article
46	Matsuda M, Fukuhara T, Donishi R, et al.	頭頸部診療科群	Clinical Utility of Qualitative Elastography Using Acoustic Radiation Force Impulse for Differentiating Benign from Malignant Salivary Gland Tumors	Ultrasound Med Biol. 2021 Feb;47(2):279-287.	Original Article
47	Hanajima R, Ugawa Y	脳神経内科	[Triad TMS of Human Motor Cortex]	Brain Nerve. 2020 Nov;72(11):1247-1253.	Original Article
48	Kanatani M, Adachi T, Sakata R, et al.	脳神経内科	Dravet syndrome with parkinsonian symptoms and intact dopaminergic neurons: A case report	Brain Dev. 2021 Mar;43(3):486-489.	Case report

49	Miyazaki D, Takamura E, Uchio E, et al.	眼科	Japanese guidelines for allergic conjunctival diseases 2020	Allergol Int. 2020 Jul;69(3):346-355.	Review
50	Fukui R, Fujii S, Ninomiya H	放射線部	[Generation of the Pseudo CT Image Based on the Deep Learning Technique Aimed for the Attenuation Correction of the PET Image]	Nihon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi. 2020;76(11):1152-1162.	Original Article
51	Kimura R, Sugita K, Yamamoto O	皮膚科	Successful switching to brodalumab in a patient with severe psoriasis developing ixekizumab-induced eczema	Eur J Dermatol. 2020 Dec 1;30(6):732-734.	Original Article
52	Hatayama Y, Hashimoto Y, Motokura T	検査部	Frequent co-reactivation of Epstein-Barr virus in patients with cytomegalovirus viremia under immunosuppressive therapy and/or chemotherapy	J Int Med Res. 2020 Nov;48(11):300060520972880.	Original Article
53	Yagi S, Sasaki T, Takahiro Fukuhara T, et al.	形成外科	Hemodynamic Analysis of a Microanastomosis Using Computational Fluid Dynamics	Yonago Acta Med. 2020 Oct 29;63(4):308-312.	Original Article
54	Doi R, Akagami S, Kondo K, et al.	歯科口腔外科	Study on the Development of a New Device with Dual Cameras for Evaluating Expiratory Nasal Flow	Yonago Acta Med. 2020 Sep 28;63(4):255-265.	Original Article
55	Wada T, Tanishima S, Kitsuda Y, et al.	リハビリテーション部	Preoperative low muscle mass is a predictor of falls within 12 months of surgery in patients with lumbar spinal stenosis	BMC Geriatr. 2020 Nov 30;20(1):516.	Original Article
56	Onoyama T, Hamamoto W, Sakamoto Y, et al.	第二内科診療科群	Peroral cholangioscopy-guided forceps biopsy versus fluoroscopy-guided forceps biopsy for extrahepatic biliary lesions	JGH Open. 2020 Aug 7;4(6):1119-1127.	Original Article
57	Tanaka T, Matsubara K, Kobayashi S.	放射線部	Evaluation of peak skin dose during percutaneous coronary intervention procedures: relationship with fluoroscopic pulse rate and target vessel	Radiol Phys Technol. 2021 Mar;14(1):34-40.	Original Article
58	Yagyu T, Saito H, Sakamoto T, et al.	第一外科診療科群	Decreased mean platelet volume predicts poor prognosis in patients with pancreatic cancer	BMC Surg. 2021 Jan 6;21(1):8.	Research Article
59	Yoshida A, Fujii M, Ikebuchi Y, Isomoto H.	第二内科診療科群	Underwater endoscopic mucosal resection is very useful for treating multiple bleeding gastric polyps	Ann Gastroenterol. 2021;34(1):124.	Original Article
60	Matsunaga T, Ishiguro R, Miyauchi W, et al.	第一外科診療科群	Appraisal of long-time outcomes after curative surgery in elderly patients with gastric cancer: a propensity score matching analysis	BMC Surg. 2021 Jan 9;21(1):33.	Original Article
61	Yamamoto K.	第一内科診療科群	After four years in the role of Editor-in-Chief	J Cardiol Cases. 2020 Oct 22;23(1):1.	Others
62	Osaki M, Okuda R, Saeki Y, et al.	リハビリテーション部	Efficiency of coordinator-based osteoporosis intervention in fragility fracture patients: a prospective randomized trial	Osteoporos Int. 2021 Mar;32(3):495-503.	Original Article
63	Goto H, Sugita K, Yamamoto O.	皮膚科	Expression of Programmed Death-Ligand 1 in Cutaneous Squamous Cell Carcinoma Arising in Sun-Exposed and Nonsun-Exposed Skin	Indian J Dermatol. 2020 Nov-Dec;65(6):506-509.	Original Article
64	Fujiwara K, Koyama S, Taira K, et al.	頭頸部診療科群	Evaluation of pharyngeal swallowing pressure using high-resolution manometry during transoral surgery for oropharyngeal cancer	J Laryngol Otol. 2021 Feb;135(2):153-158.	Original Article
65	Onoyama T, Hamamoto W, Sakamoto Y, et al.	第二内科診療科群	Peroral Cholangioscopy-Guided Forceps Mapping Biopsy for Evaluation of the Lateral Extension of Biliary Tract Cancer	J Clin Med. 2021 Feb 5;10(4):597.	Original Article
66	Fujii S, Mukuda N, Murakami A, et al.	放射線科	CT and MR imaging findings of bilateral ovarian metastasis from renal cell carcinoma: a case report	Acta Radiol Open. 2021 Feb 11;10(2):2058460121990293. doi: 10.1177/2058460121990293. eCollection 2021 Feb.	Case report
67	Fujiwara K, Koyama S, Donishi R, et al.	頭頸部診療科群	Application of an Immobilization Device for the Modified Killian's Method	Yonago Acta Med. 2020 Dec 25;64(1):12-17.	Original Article
68	Nakajima S, Sakamoto M, Yoshioka H, et al.	脳神経外科	A New Method of Microcatheter Heat-Forming for Cerebral Aneurysmal Coiling Using Stereolithography Three-Dimensional Printed Hollow Vessel Models	Yonago Acta Med. 2021 Feb 1;64(1):113-119.	Original Article
69	Okazaki T, Adachi K, Matsuura K, et al.	遺伝子診療科	Clinical Characteristics of Fragile X Syndrome Patients in Japan	Yonago Acta Med. 2021 Jan 6;64(1):30-33.	Original Article
70	Ikebuchi Y, Yoshida A, Kurumi H, et al.	第二内科診療科群	Salvage Photodynamic Therapy Using Talaporfin Sodium for Local Failure of Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Yonago Acta Med. 2021 Feb 22;64(1):120-125.	Original Article
71	Narai S, Kawashima-Sonoyama Y, Fujimoto, et al.	小児科	Cord Blood from SGA Preterm Infants Exhibits Increased GLUT4 mRNA Expression	Yonago Acta Med. 2021 Jan 20;64(1):57-66.	Original Article
72	Fukuoka K, Yagi S, Suyama Y, et al.	形成外科	Effect of Subcutaneous Adrenaline/Saline/Lidocaine Injection on Split-Thickness Skin Graft Donor Site Wound Healing	Yonago Acta Med. 2021 Feb 1;64(1):107-112.	Original Article

73	Tada Y, Yamamoto M, Sawata S, et al.	第一外科診療科群	Ruptured Small Intestinal Stromal Tumor Causing Concurrent Gastrointestinal and Intra-Abdominal Hemorrhage: A Case Report	Yonago Acta Med. 2021 Feb 22;64(1):137-142.	Original Article
74	Yasui S, Takata T, Kamitani Y, et al.	第二内科診療科群	Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Is a Useful Marker for Predicting Histological Types of Early Gastric Cancer	J Clin Med. 2021 Feb 16;10(4):791.	Original Article
75	Hamada S, Takata T, Kitaura T, et al.	第二内科診療科群	Peritoneal dialysis-associated peritonitis caused by Mycobacteroides massiliense: the first case and review of the literature	BMC Nephrol. 2021 Mar 12;22(1):90.	Case report
76	Okada T, Kanda T, Ueda N, et al.	第二内科診療科群	IL-8 and LYPD8 expression levels are associated with the inflammatory response in the colon of patients with ulcerative colitis	Biomed Rep. 2020 Apr;12(4):193-198.	Original Article
77	Yamanashi T, Iwata M, Kaitlyn J Crutchley, et al.	精神科	New Cutoff Scores for Delirium Screening Tools to Predict Patient Mortality	J Am Geriatr Soc. 2021 Jan;69(1):140-147.	Original Article
78	Yamanashi T, Malicoat J, Steffen K, et al.	精神科	Bispectral EEG (BSEEG) quantifying neuro-inflammation in mice induced by systemic inflammation: A potential mouse model of delirium	J Psychiatr Res. 2021 Jan;133:205-211.	Original Article

小計6件
計78件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること。
- 6「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	清水 剛,高見 飛鳥,長尾 裕一郎 他	脳神経外科	緊急での外科的治療が必要であった下垂体疾患の 2症例	Neurosurgical Emergency(1342- 6214)26巻1号 Page93-98(2021.03)	Original Article
2	矢田 晋作,大内 泰文,永原 天和 他	放射線科	肝性脳症に対するPARTO(plugin-assisted retrograde transvenous obliteration)の初期経験	日本門脈圧亢進症学会雑誌 (1344-8447)27巻1号 Page64-	Case report
3	高森 裕弘,足立 良行,今 井 智登世 他	検査部	当院における新生児聴カスクリーニングAABRと conventional ABRの現状	医学検査(0915-8669)70巻1号 Page53-58(2021.01)	Original Article
4	藤井 太平,藤原 和典,福 原 隆宏 他	頭頸部診療科群	VERSATILE TRAINING TISSUE(VTT)粘膜モデルを 用いた咽喉手術シミュレーターによる内視鏡手術ト レーニングの医学生教育における有用性	耳鼻咽喉科臨床(0032-6313)114巻 2号 Page139-144(2021.02)	Original Article
5	矢間 敬章,渡部 佑,藤原 和典 他	頭頸部診療科群	反復性髄膜炎を生じた内耳奇形例	耳鼻咽喉科臨床(0032-6313)114巻 1号 Page15-19(2021.01)	Case report
6	小山 あゆみ,大谷 史江, 宮崎 大 他	眼科	Nigrospora属糸状菌による遷延性真菌性角膜炎の1 例	臨床眼科(0370-5579)75巻1号 Page118-123(2021.01)	Case report
7	木原 恭一,原和志,菅澤 健 他	第一外科診療科群	大腸癌患者における定期内服錠剤の臨床的意義	日本消化器外科学会総会 75回 Page108(2020.12)	Original Article
8	下雅意 り佐藤 慎也,飯 田 祐基 他	女性診療科群	術前に診断し得た子宮頸部明細胞癌の一例	現代産婦人科(1882-482X) 69巻1 号 Page95-100(2020.12)	Case report
9	池田 彩乃,山田 七子,山 元 修	皮膚科	【冬の皮膚病】冬に悪化し多彩な臨床像をとった顔 面・耳介・手・足の紅斑 凍瘡様ループス	皮膚病診療(0387-7531) 42巻12 号 Page1098-1101(2020.12)	Case report
10	伊田 純美,高田 知朗,小川 将也 他	第二内科診療科群	維持血液透析患者における感染症の実態調査	日本透析医学会雑誌(1340-3451) 53巻11号 Page539-546(2020.11)	Original Article
11	三好 由希子,高根 浩,森下 駿 他	薬剤部	緑膿菌耐性率に関連するカルバペネム系抗菌薬の 使用評価指標の単施設後方視的調査研究	日本環境感染学会誌(1882-532X) 35巻6号 Page233-240(2020.11)	Original Article
12	高橋 真巳,秦 英司,本城 綾一郎 他	薬剤部	レボドパ・カルビドパ配合経腸用液導入時に薬剤師 が介入した1症例	学会誌JSPEN(2434-4966) 2巻4 号 Page270-276(2020.10)	Case report
13	花木 啓一,高山 玲苑,中澤 廣一 他	小児科	低身長小児・若年者のもつ体格イメージと性格特性 の関連 職業選択意識との関連について	成長科学協会研究年報(0386- 7617) 43号 Page65-71(2020.10)	Original Article
14	久岡 亜沙未,石田 博美,松 本 美幸 他	眼科	ランドルト環選択法による視力測定の試み	米子医学雑誌(0044-0558) 71巻 1-3号 Page12-17(2020.9)	Original Article
15	山家 健作,椋 大知,尾崎 まり 他	整形外科	切離断術を行った下肢原発肉腫の臨床像	整形外科と災害外科(0037-1033) 69巻4号 Page891-983(2020.9)	Original Article
16	林原 雅子,榎田 誠,石田 孝次 他	整形外科	異なる術式で手術を行った成人女性のFreiberg病の 2例	整形外科と災害外科(0037-1033) 69巻3号 Page601-604(2020.9)	Case report
17	田中 健一郎,坂本 誠,渡 辺 裕徳 他	脳神経内科	鳥取県内における急性期脳梗塞に対するt-PA療法 の全例報告と各医療機関の現状	脳卒中(0912-0726) 42巻5号 Page389-384(2020.9)	Original Article
18	江原 浩明,福原 隆宏,森崎 剛史 他	頭頸部診療科群	輪状軟骨多発骨折症例に対し針付縫合糸の工夫が 有用であった1例	耳鼻と臨床(0447-7227) 66巻5 号 Page168-171(2020.9)	Case report
19	奥野 啓介,川場 大輔,前島 敦 他	小児科	エシスマブを導入したインヒビター非保有重症血友 病Aの2例	津山中央病院医学雑誌(0913- 9176) 34巻1号 Page73-	Case report
20	岡野 淳一,池田 傑,星野 由樹 他	第二内科診療科群	非B非C型を含む肝細胞癌早期診断の課題	鳥取医学雑誌(0388-3795) 48巻 1-2号 Page23-26(2020.8)	Original Article
21	小島 奈央,畑山 祐輝,仲 田 夢人 他	検査部	Daratumumab投与後早期に間接抗グロブリン試験 が陰性となった2症例	日本輸血細胞治療学会誌(1881- 3011) 66巻4号 Page649- 653(2020.8)	Case report
22	伊澤 正郎,谷口 文紀,原 田 省	女性診療科群	子宮内膜癌細胞に特徴的な低メチル化により活性 化されたGATA6遺伝子エンハンサー	日本エンドメトリオーシス学会誌 41巻 Page157-159(2020.7)	Original Article
23	高橋 朋大,木原 恭一,原 和志	第一外科診療科群	ポリスチレンスルホン酸塩の関与が疑われた反復性 S状結腸穿孔の1例	日本臨床外科学会雑誌(1345- 2843) 81巻7号 Page1346-	Case report
24	中澤 一樹,林原 雅子,奥 野 誠之 他	整形外科	当院におけるDupuytren拘縮に対するコラゲナーゼ 注射療法の治療成績	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌(0008-9443) 63巻4号 Page653-654(2020.7)	Original Article
25	金谷 優広,足立 正,阪田 良一 他	脳神経内科	抗横紋筋抗体陽性の重症筋無力症に合併した sporadic late-onset nemaline myopathyの1例	臨床神経学(0009-918X) 60巻7 号 Page489-494(2020.7)	Case report
26	清水 剛,竹内 啓九,穴戸 尚 他	脳神経外科	両側頸動脈椎骨動脈吻合を伴った両側内頸動脈狭 窄症に対してCASを施行した1例	脳血管内治療(2423-9119) 5巻3 号 Page130-135(2020.6)	Case report
27	中澤 一樹,谷島 伸二,三 原 徳満 他	整形外科	Hall frame使用によって顕著な転位を生じたDISHに 伴う胸椎椎体骨折の1例	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌(0008-9443) 63巻3号 Page491-492(2020.7)	Case report
28	石田 孝次,林 育太,榎田 誠 他	整形外科	学童期野球選手における上腕骨内側上顆骨形態異 常と腕尺関節尺骨内側縁軟骨厚の関連	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌(0008-9443) 63巻3号 Page489-490(2020.5)	Others
29	奥野 誠之,林原 雅子,永 島 英樹	整形外科	破格を伴った小指屈筋腱皮下断裂の2例	中部日本整形外科災害外科学会 雑誌(0008-9443) 63巻3号 Page477-478(2020.5)	Case report
30	磯本 一,河口 剛一郎	第二内科診療科群	根治的内視鏡治療が可能であった早期食道癌症例 の死因に関するコホート研究	疾病構造の地域特性対策専門委 員会報告 34巻 Page34-	Original Article
31	中村 廣繁,城所 嘉輝,門 永 太一 他	胸部外科診療科群	治療形式から見た肺高悪性度神経内分泌癌切除症 例の検討	疾病構造の地域特性対策専門委 員会報告 34巻 Page23-	Others
32	前垣 義弘,坂倉 文子	脳神経小児科	鳥取県における発達障がい児の二次障がいと関 連要因に関する研究	疾病構造の地域特性対策専門委 員会報告 34巻 Page1-5(2020.5)	Original Article
33	三宅 睦,宮崎 大,井上 幸 次	眼科	若年女性の外眼角に発症した緑膿菌による難治性 結膜肉芽腫の1例	あたらしい眼科(0910-1810) 37 巻4号 Page476-479(2020.4)	Case report
34	石田 孝次,柳樂 慶太,榎 田 誠	整形外科	足関節周囲に発生したびまん型膿瘍膜巨細胞腫の 3例	JOSKAS(1884-8842) 45巻2号 Page536-537(2020.4)	Case report
35	藤原 聖史,山家 健作,椋 大知 他	整形外科	骨軟部腫瘍に対するCTガイド下生検	中国・四国整形外科学会雑誌 (0915-2695) 32巻1号 Page49-52(2020.4)	Original Article
36	奥野 啓介,川場 大輔,前 島 敦 他	小児科	遷延性咳嗽を契機に診断されたHodgkinリンパ腫の 1例	小児科臨床(0021-518X) 73巻4 号 Page503-507(2020.4)	Case report
37	後藤 寛之	皮膚科	【よくみる疾患 common skin disease】皮膚原発肛 門乳房外Paget病 異時に陰嚢にも多発病変を生 じた症例	皮膚病診療(0387-7531) 42巻4 号 Page334-337(2020.4)	Case report
38	渡部 加奈子,仲田 夢人, 市川 ひとみ 他	検査部	ルミバルスL2400における可溶性IL-2R測定試薬の 基礎的検討	医学検査(0915-8669) 69巻2号 Page208-214(2020.4)	Original Article

計38件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 目的と適応範囲 1. 1. 目的 1. 2. 適応範囲 2. 委員会の構成 2. 1. 委員 2. 2. 委員会事務局 2. 3. 教育・研修 2. 4. 守秘義務 2. 5. 利益相反の管理 3. 審査・報告事項 4. コンサルテーション 5. 審査・報告申請 5. 1. 審査・報告資料の提出 5. 2. 提出資料 6. 倫理審査 6. 1. 一般審査 6. 2. 迅速審査 7. 審査結果の通知 8. 審査結果通知後の対応 9. 調査 10. 他の研究機関からの審査依頼 11. 情報公開 12. 記録の保管	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年37回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	⑦・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	⑦・無
・ 規定の主な内容 (目的) 鳥取大学医学部附属病院における臨床研究の実施者及びその関係者の利益相反(以下「利益相反」という。)が深刻な事態へと発展することを未然に防止するため、臨床研究に係る利益相反の適切な管理(以下「利益相反マネジメント」という。)に関し必要な事項を定め、もって臨床研究の適正な推進を図ることを目的とする。 (利益相反マネジメントの対象及び基準) 利益相反マネジメントの対象者は、次に掲げる者 一 臨床研究実施者等 二 臨床研究実施者等の配偶者及び臨床研究実施者等と生計を一にする当該臨床研究実施者等の親族 三 その他審査委員会が必要と判断した者 開示対象とする事項 一 経済的利益 二 経営関与 利益相反マネジメントは、臨床研究を実施するに当たり、被験者及び社会に対し、教育者・研究者又は医療関係者としての公正性に客観的な疑念を生じさせるか否かを判断基準として行うものとする。 (臨床研究実施者等の責務) 利益相反の発生が懸念される場合は、この規程に定めるところにより所定の手続きを経るほか、透明性、公正性の確保に自ら努める。	

(臨床研究利益相反審査委員会の業務等)	
一 利益相反の防止に関すること。	
二 利益相反に係る調査及び審査に関すること。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・研修の主な内容 1. 公正な研究と安全性情報管理 2. 臨床研究に関する法規・ガイドラインと遵守すべき倫理的原則 3. 臨床研究のデータマネジメント 4. 臨床研究におけるインフォームドコンセント 5. 臨床研究における傾向スコア重み付き解析	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科の研修統括者のもと指導医による専門研修の指導を行っており、新専門研修制度においては、本院を基幹施設として県内外の関連病院を連携施設とした専門研修プログラムを策定し、各領域において高度な医療に関する研修の指導体制を構築している。また、各領域の研修プログラムにおいては、専門医資格の取得をはじめ、大学院重点コースや地域医療に配慮したコースを設定し、高度な医療に関する専門知識・技術、資質を習得し、社会に貢献できる医師の育成を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	79人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山本 一博	循環器内科／ 内分泌代謝内科	主任診療科長	35年	内科含む
磯本 一	消化器内科／ 腎臓内科	主任診療科長	31年	内科含む
山崎 章	呼吸器内科／ 膠原病内科／ アレルギー科	主任診療科長	28年	内科含む
岩田 正明	精神科	診療科長	21年	
難波 範行	小児科	診療科長	30年	
藤原 義之	消化器外科／ 小児外科	診療科長	34年	
西村 元延	心臓血管外科	診療科長	38年	
中村 廣繁	呼吸器外科／ 乳腺内分泌外科	主任診療科長	37年	
永島 英樹	整形外科／ リウマチ科	診療科長	33年	
山元 修	皮膚科	診療科長	39年	
武中 篤	泌尿器科	診療科長	35年	

井 上 幸 次	眼科	診療科長	40年	
藤 原 和 典	耳鼻咽喉科／ 頭頸部外科	主任診療科長	20年	
藤 井 進 也	放射線科	診療科長	23年	
吉 田 賢 史	放射線治療科	診療科長	23年	
谷 口 文 紀	産婦人科	診療科長	28年	
大 槻 明 広	麻酔科	診療科長	22年	
小 谷 勇	歯科口腔外科	診療科長	27年	
今 村 武 史	薬物療法内科	診療科長	34年	
八 木 俊路朗	形成外科	診療科長	20年	
上 田 敬 博	救急科	診療科長	23年	
福 田 哲 也	血液内科	診療科長	32年	内科含む
花 島 律 子	脳神経内科	診療科長	31年	内科含む
黒 崎 雅 道	脳神経外科	診療科長	31年	
前 垣 義 弘	脳神経小児科／ 遺伝子診療科	診療科長	33年	
梅 北 善 久	病理診断科／ 神経病理診断科	主任診療科長	34年	
千 酌 浩 樹	感染症内科	診療科長	33年	内科含む

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. BLS研修	
・研修の主な内容	一次救命処置の知識を習得する
・研修の期間・実施回数	令和3年3月1日、3月8日、3月12日・3回
・研修の参加人数	302人
2. 接遇研修	
・研修の主な内容	よりよい看護サービスを提供するための接遇を学ぶ
・研修の期間・実施回数	令和2年4月3日・1回
・研修の参加人数	79人
3. 災害看護研修	
・研修の主な内容	災害時における看護を理解する
・研修の期間・実施回数	令和2年7月30日・1回
・研修の参加人数	81人
4. コミュニケーション研修	
・研修の主な内容	コミュニケーション方法を理解する
・研修の期間・実施回数	令和2年6月25日・1回
・研修の参加人数	67人
5. ポジティブマネジメント	
・研修の主な内容	ポジティブマネジメントを学ぶ（強みを引き出し、その人らしさを支える）
・研修の期間・実施回数	令和3年1月18日・1回
・研修の参加人数	32人
6. 倫理研修基礎	
・研修の主な内容	臨床での倫理的課題に関する事例検討を通して、倫理観を醸成するため
・研修の期間・実施回数	令和2年4月2日・1回
・研修の参加人数	81人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
1. メンタルヘルス研修	
・研修の主な内容	管理職員を対象に、安全配慮義務とメンタルヘルス不全による休職者、復職者への対応、特に予兆段階、復職時の対応、職場復帰後のフォローまでのポイントや法的な留意点を学ぶ
・研修の期間・実施回数	令和2年11月9日～令和3年2月26日（eラーニングで受講）
・研修の参加人数	239人
2. 労務管理研修会	
・研修の主な内容	本学の就業規則、労使協定を踏まえて、長時間労働による健康障害の防止（安全配慮義務）、勤務時間管理等について意識啓発を行う
・研修の期間・実施回数	令和2年8月3日～令和2年10月30日（eラーニングで受

・研修の参加人数	講) 49人
3. ハラスメント防止研修会	
・研修の主な内容	ハラスメント防止に関する基本的な知識を修得し、ハラスメントのない職場作りを行う
・研修の期間・実施回数	令和2年7月1日～令和2年9月30日（eラーニングで受講）
・研修の参加人数	128人
4. ハラスメント相談研修会	
・研修の主な内容	ハラスメント相談員の役割を理解するとともに、相談員としてハラスメント相談を受ける際に必要な傾聴のスキル等を習得する
・研修の期間・実施回数	令和2年7月1日～令和2年9月30日（eラーニングで受講）
・研修の参加人数	5人
5. 「情報セキュリティ研修会及び個人情報保護研修会」（一般向け）	
・研修の主な内容	個人情報の適切な管理について 情報セキュリティ関連アップデートについて 情報セキュリティインシデントと情報セキュリティインシデント対応を考慮した情報セキュリティ対策について
・研修の期間・実施回数	令和2年9月29日・10月13日～3月31日・1回 （9月29日の対面研修又はeラーニングで受講）
・研修の参加者	399人
6. 個人情報保護及び情報セキュリティ研修会	
・研修の主な内容	改正個人情報保護法とコロナ時代のサイバーセキュリティ
・研修の期間・実施回数	令和3年1月22日・令和3年1月29日～3月31日・1回 （1月22日の対面研修又はeラーニングで受講）
・研修の参加人数	787人
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	
・研修の期間・実施回数	
・研修の参加人数	

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 原田 省
管理担当者氏名	総務課長 浦田 明宏 医事課 井中康夫 医療支援課長 木村博明

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	医療情報部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	医療情報部
		紹介状	医療情報部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課 医学図書館
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 MEセンター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
管理者が有する権限に関する状況	総務課（経営企画課）		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 原田 省	
閲覧担当者氏名	総務課長 浦田 明宏、医事課長 井中 康夫、医療支援課長 木村 博明	
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室	
閲覧の手続の概要		
① 公開は、請求者が「開示請求書」を情報公開窓口の総務企画部総務課広報企画係に提出する。		
② 大学は開示・不開示の決定を行い、「決定通知書」により請求者へ通知する。		
③ 請求者は、開示の実施方法・希望日を「開示の実施方法の申出書」により窓口へ申し出、開示実施手数料を支払う。		
④ 開示（閲覧）を実施する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための組織に関する基本的事項 (3) 医療安全管理のための医療従事者に対する研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院における医療従事者と患者及び家族等との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者及び家族等からの相談への対応に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 医療に係る安全管理体制の確保及び推進を図り、医療事故等及び医療行為に基づく医事紛争に対する防止策等について審議する。 （審議事項） ・ 医療に係る安全管理のための指針の策定・整備に関すること ・ 医療に係る安全管理のための教育・研修の企画・立案に関すること ・ 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること ・ 医療事故等及び医事紛争を防止するために必要な啓発及び対策に関すること ・ 医療事故等発生時の対応、事実確認並びに医療安全の確保及び医療事故等の再発防止に関し病院長から命を受けたこと ・ その他医療に係る安全管理体制の確保及び推進に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年75回

- ・ 研修の内容（すべて）：
- ・ 医療安全研修会（6回）
- ・ 委託業務従事者研修会（1回）
- ・ 医療機器研修会（6回）
- ・ BLS研修会（18回）
- ・ 薬剤関連研修会（4回）
- ・ 病院情報システム研修会（17回）
- ・ 新採用・中途採用オリエンテーション（19回）
- ・ 院内認定看護師育成研修（4回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ☒ ・ 無 ）
- （報告の分析）
1. 医療安全管理責任者の指示のもと、医療安全管理者が、インシデント報告書を基に①内容 ②原因と要因 ③改善策 ④患者影響レベル ⑤患者及び家族への対応と反応等について現場で確認を行っている。
 2. 1を基に問題点を抽出し、現場や院内全体での改善策を講じている。
- （検討方法）
1. 医療安全管理責任者を中心に、医療安全管理者、リスクマネジメント専門委員会委員が、インシデント報告についてカンファレンスを実施し、再発防止対策を検討する。
 2. 医療安全管理者は毎月の事例を分析し報告書を作成、リスクマネジメント専門委員会・医療事故防止等対策委員会・病院運営会議・統括医長連絡会リスクマネジメント担当者連絡会・看護師長会議等で報告し検討している。
 3. 事例によっては、クオリティ審査専門委員会・拡大クオリティ審査専門委員会等で審査を行う。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 感染管理組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する「鳥取大学医学部附属病院における院内感染対策のための指針」の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策推進のために必要な基本方針 8. 職業感染防止のための基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1. 感染予防の対策に関すること 2. 感染予防対策実施の監視及び指導に関すること 3. 感染予防に係る情報の収集に関すること 4. 感染の発生原因及び感染経路の調査に関すること 5. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の内容（すべて）： 1. 当院の新型コロナウイルス対策！～「伝播させないため」の体液曝露対策と手指衛生～ 2. 当院の新型コロナウイルス対策 第2弾	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染症診療カンファレンスによる抗菌薬耐性菌検出患者・血液培養陽性患者・MRSA感染症治療薬および広域抗菌薬投与患者などの診断・治療・感染対策の検討 ・ 病棟ラウンドによる感染対策実施状況確認と現場指導	

- ・サーベイランスによる感染症情報の把握とアウトブレイクへの対応
- ・感染制御部メンバーによる定期ミーティング

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	㊥・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
・ 研修の主な内容： ・ 医療安全研修会「持参薬使用基準について」（1 回） ・ 血糖測定研修会（2 回） ・ インスリン療法研修会（2 回） ・ 新採用・中途採用職員オリエンテーション（13 回）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成（㊥・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入に関する事項 ・ 医薬品の管理に関する事項（麻薬等の管理方法等） ・ 患者の持参薬歴情報等の収集方法、処方せんの記載方法 ・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項 ・ 他施設（病院等、薬局等）との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備（㊥・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法 ※未承認等の医薬品の情報その他の情報の収集） ・ 医療安全管理部および医薬安全に係る委員会と連携し、院内で発生するインシデント等の情報収集 ・ 病院で発生する副作用・感染症情報の把握 ・ 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業からの情報提供（口頭、インターネット、書面等）	

(情報の周知方法)

- ・ 緊急性、重要性、対象により、以下の方法等による周知を図る
- ・ 新採用者または全職員を対象に開催する研修会
- ・ 書面や医療情報システム掲示板・院内メールを利用した情報提供
- ・ 医師等の個人に直接情報提供
- ・ 病棟担当薬剤師による医師薬剤師への説明

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 56 回
- 研修の主な内容： ・輸血ポンプ・シリンジポンプ（2回） ・人口呼吸器研修会（2回） ・人工呼吸非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）（2回） ・人工心肺装置・daVinci・人工呼吸器・その他（50回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 医療機器に係る計画の策定（有・無） - 機器ごとの保守点検の主な内容： ・MEセンターで直接管理している医療機器については、点検の対象機器及び方法を定めセンターでの定期点検、現場定期点検、使用前点検、使用中点検、使用後点検に区別して点検記録簿を作成し管理保管している。 ・現場管理が主体となる放射線装置については、部署の担当責任者が管理し、MEセンターはそれらの医療機器の定期点検表、修理点検表等の写しを提出してもらい、一括管理保管する。 ・保守・修理・点検にあたっては、計画の作成に参画し、業者との窓口としての業務を行っている。院内で定期点検する場合は、メーカーの技術講習会を受けたMEが実施、点検項目や頻度はメーカー推奨を参考に作成している。 ・精度、機能、安全機構、ソフトのバージョン等メーカー技術講習に準じて実施。オーバーホールも含む。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） - 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： - その他の改善のための方策の主な内容： （情報収集の方法） ・医療機器の添付文書、取扱説明書の安全使用・保守点検に関する文書整理し管理する。また、院内で発生する医療機器に関する不都合情報はMEセンターに報告してもらい、製造販売会社から適切な対処方法に関して情報提供を求めている。	

(情報の周知方法)

- ・医療安全管理部、リスクマネジメント専門委員会と協議協力して、院内に周知する。
- ・医療機器の不都合情報・安全情報等は、当該医療機器に直接携わる関係者には口頭、文書で通知し、院内には「MEセンター瓦版」、「リスクマネジメント便り」、あるいは医療情報システムを利用して情報提供を行う。さらに、研修会実施時に情報提供を行い、周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 副病院長（医療安全）を配置している。 （職務内容） 医療安全管理部、医療事故防止等対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、インフォームド・コンセント説明等責任者の統括をしている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医療安全管理部や医療安全に係る委員会等と連携の下、次の業務を行う。 1. 医薬品の安全のための業務に関する手順書の作成並びに改定 2. 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 3. 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施 4. 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認医薬品の使用状況は医薬品情報管理室にて一元管理を行い、定期的に（月一回程度）その結果を報告させ、必要な介入の指示を行い、実施させる。 ・ 担当者の指名の有無（有・無） ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内	

容：

- ・説明等の実施に必要な方法に関して、インフォームド・コンセントマニュアル等に定められた事項の遵守状況を定期的に確認している。
- ・説明方法、内容、文書管理等についての検討事項は、適宜インフォームド・コンセント専門委員会でルール化している。
- ・不適切な事例が認められる場合は、当該部署へ指導を行うとともに、必要に応じて院内文書（インフォームド・コンセント便り等）により病院全体へ周知している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録管理委員会内に診療録監査専門部会を設置し、診療録等の記載内容、退院サマリーの作成状況、カウンターサインの実施状況等を毎月確認している。内容の記載不備、未作成または未実施など不備がある場合は、担当医師に直接指導を行っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（12）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ・医療安全に関わる委員会の運営並びにその記録、資料等の作成及び保存に関すること ・医療安全に係る教育・研修の企画・立案・運営・学習効果測定の実施に関すること ・医療事故及びこれに準じて取り扱うことが必要な事象（以下「医療事故等」という。）が発生した場合における診療録や看護記録等への記載が、正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること ・医療事故等が発生した場合における患者又はその家族への説明などの対応状況についての確認及び指導に関すること ・医療事故等の発生原因の究明等対応状況が適切に実施されていることの確認及び当該確認結果に基づく医療従事者への必要な指導に関すること ・各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づく医療安全確保のための業務改善計画書の作成並びにそれに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録に関すること	

- ・ 医療安全に資する診療内容及び医療従事者の医療安全の認識についてのモニタリングに関するこ
と（診療録管理委員会にて監査を実施）
- ・ 死亡例及び合併症の報告等に関すること
- ・ 医療安全に係る内部通報に関すること
- ・ 医薬品及び医療機器の安全管理に係る助言指導に関すること
- ・ インフォームド・コンセント及び診療録の管理の適切な実施に係る助言指導に関すること
- ・ 医療安全に係る外部監査に関すること
- ・ 医療安全に関わる委員会とその連携状況，院内研修の実績，患者等の相談件数及び相談内容，相
談後の取扱い，その他ゼネラルリスクマネージャーの活動実績の記録に関すること
- ・ 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施に関すること
- ・ 特定機能病院間相互のピアレビューの実施に関すること
- ・ 医療安全管理に係る連絡調整に関すること
- ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること
- ・ 未承認新規医薬品・医療機器の使用に関すること
- ・ その他本院における医療安全の確保のための対策の推進に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療
に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識に
ついての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 8 件）、及び許可件数（7 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医
療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ ・ 無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高難度新規医療技術等に該当するか否かの判断に関すること
 - ・ 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供申請の適否等の決定及び結果通知に関すること
 - ・ 関係する委員会等との調整に関すること
 - ・ 提供を認めた高難度新規医療技術等の周知及び関係者への指導に関すること
 - ・ 病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関すること
 - ・ 患者申出療養の実施の可否に関すること
 - ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ ・ 無）
 - ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ ・ 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（53 件）、及び許可件数（49 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品・医療機器に該当するか否かの判断に関する事
 - ・未承認新規医薬品・医療機器の使用申請の適否等の決定及び結果通知に関する事
 - ・関係する委員会等との調整に関する事
 - ・使用を認めた未承認新規医薬品・医療機器の周知及び関係者の指導に関する事
 - ・病院長が定めた手順書の遵守状況の確認に関する事
 - ・患者申出療養の実施の可否に関する事
 - ・その他必要と認められる業務
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 5 2 8 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1 7 9 件（実数：1 6 5 件）
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理部が、入院患者の死亡事例を確認し、その中で異状死、問題のある症例、診療科から報告のあった死亡事例については、さらに詳しく検証を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒・無（病院名：島根大学医学部附属病院））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒・無（病院名：岡山大学病院））
- ・技術的助言の実施状況
書類審査のため特になし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

平成15年4月1日に医療相談室を設置し、現在、医療相談室長（医師）1名、医事課及び医療支援課の事務職員16名の相談員を配置している。

また、令和2年5月1日に総合患者相談窓口を新設し、専任の相談員を配置するとともに看護師及び医療支援課の事務職員20名の相談員が連携対応している。

相談受付時間は、平日8:30から17:00（土日祝日除く）としている。

（活動状況等）

医療相談室及び総合患者相談窓口の相談員が、医療安全管理部（医療安全管理者）と協力して患者等からの安全管理を含めた医療に関する相談や苦情などに適切に対応している。

対応にあたっては、患者等の秘密の厳守及び患者が不利益を受けないよう適切な措置を講じながら適切かつ迅速に問題を解決するよう努めている。

また、必要に応じて、医師、看護師等各部署と協力して対応にあたり、途中経過及び結果を病院長に報告しているとともに、総合患者相談窓口では毎週、関係部署で1週間の事例共有と対応評価のカンファレンスを実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

職員の医療の安全に関する意識、職員間の相互に連携して業務を行なうことについての認識、業務を安全に行なうための技能向上等を目的とした研修は、医療安全研修会、医療機器研修会等で実施している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を「特定機能病院管理者研修」参加させるなどの措置を講じている。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

評価を行った機関名： 公益財団法人 日本医療機能評価機構

評価を受けた時期： 2019年10月9日～10月11日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページにて公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

改善事項3項目について確認審査を受審

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

医師免許を有している者

鳥取大学医学部附属病院の主任診療科長、診療科長又は診療施設の長に併任されているもの。

医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者

- ① 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者 の業務
- ② 医療事故防止等対策委員会の構成員としての業務
- ③ 医療安全管理部における業務
- ④ その他上記に準ずる業務

組織管理能力等の医学部附属病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有している者

- ① 病院長又は副病院長の経験
- ② 診療科長又は診療施設等の長の3年以上の経験

教育・研究・診療に必要な資質及び能力を有している者

大学の医学系教授の経験があり、学識に優れ、医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有している者

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）

- ・ 公表の方法

鳥取大学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページ				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
松田 成史	理事(総務・財務・施設・環境担当)・副学長・事務局長	○	医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第1号に基づく学長が指名する理事	有・無
黒沢 洋一	医学部長		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第2号に基づく役職指定	有・無
山本 一博	副病院長(総務)		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第3号に基づく学長が指名する副病院長	有・無
中村 真由美	副病院長(医療の質管理)		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第4号に基づく役職指定	有・無
武中 篤	副病院長(経営・広報)		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく病院から選出された教職員	有・無
宮田 幸宏	事務部長		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第5号に基づく病院から選出された教職員	有・無
藤井 秀樹	鳥取県福祉保健部理事監		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第6号に基づく学長が委嘱する学外の有識者 (鳥取県の医療に係る保健・医療・福祉全般に豊富な知識を有している。)	有・無
根津 勝	鳥取県西部医師会会長		医学部附附属病院長候補者選考会議規則第3条第6号に基づく学長が委嘱する学外の有識者 (鳥取県西部医師会の責任者として、医学・医術の発達と公衆衛生の向上に寄与し、地域の保健・医療・福祉の連携に高い見識を有している。)	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
・合議体の主要な審議内容 管理運営上の諸種の事項の調査審議し、これらに関し必要な事項を建議する。 ・審議の概要の従業者への周知状況 医学部附属病院ホームページにより公表 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 鳥取大学ホームページにより公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職

役職指定で構成員が決まっているため名簿の作成はおこなっていない。

- 一 病院長
- 二 管理運営組織の長
- 三 主任診療科長
- 四 診療科長
- 五 診療施設の長
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 診療支援技術部長
- 九 臨床研修支援部長
- 十 事務部長
- 十一 その他病院長が必要と認めた者

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
鳥取大学ホームページにより公表
- ・ 規程の主な内容
病院経営・企画の専門的事項に関する業務
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長（総務）評価監査・人事労務・教育・キャリアアップ支援・特定行為等
副病院長（経営・広報）経営・広報・先進医療・臨床試験・国際交流等
副病院長（医療安全）診療録・災害対策・個人情報保護
副病院長（医療の質管理）患者サービス等
病院長特別補佐（業務改善）病院業務改善等
病院長特別補佐（地域連携）地域包括ケアシステムの構築・病院機能分化
病院長特別補佐（医療安全・患者サービス担当）メディエーター・地域医療等
病院長特別補佐（患者サービス担当）メディエーターに関する事項，地域医療に関する事項
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院のマネジメントを円滑に遂行するために複数の副病院長、病院等特別補佐を置き業務分担を行っている。
国立大学附属病院長会議等が企画する「病院長塾」「病院経営次世代リーダー養成塾」へ参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査 ・ 病院の医療安全に係る管理状況及び改善状況に関する審議 ・ 監査及び審議結果の学長及び病院長への報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： 病院のホームページ及び大学のホームページにて公表						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
福田 誠司	国立大学法人 島根大学医学 部附属病院 医療安全管理 部 教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者として適任であるため。	有・無	1	
中村 寿夫	中村法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者として適任であるため。	有・無	1	
前田 純子	NPO 法人岡山 SP 研究会代表		医療を受ける者で、かつ医療従事者以外であり、医療安全管理についての知識を有する者として適任であるため。	有・無	2	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

鳥取大学内部統制規則を整備するとともに、鳥取大学監査室による定期監査を行っている。令和2年度は個人情報の管理状況に関する監査等を実施した。

また病院の管理及び運営を行うための合議体である病院運営会議に監事が出席している。

- ・ 専門部署の設置の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 公表の方法

鳥取大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 経営協議会を設置し、外部委員を含めた構成員により開催している。 ・ 会議体の実施状況（ 年5回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年5回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 鳥取大学ホームページに公表			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
中島 廣光	学長	○	有・無
田村 文男	理事・副学長		有・無
河田 康志	理事・副学長		有・無
細井 由彦	理事・副学長		有・無
小嶋 稔	理事・副学長・事務局長		有・無
藪田 千登世	理事・副学長		有・無
坂本 直	理事		有・無
原田 省	医学部附属病院長・副学長		有・無
江崎 信芳	公立大学法人公立環境大学学長		有・無
熊埜御堂 朋子	NHK 鳥取放送局 局長		有・無
中島 諒人	特定非営利活動法人鳥の劇場 代表理事		有・無
林田 英樹	元文化庁長官		有・無
平井 伸治	鳥取県知事		有・無
松本 典子	学校法人藤田学院鳥取短期大学 学長		有・無
宮崎 正彦	(株)鳥取銀行 代表取締役会長		有・無
吉岡 秀樹	(株)新日本海新聞社 取締役		有・無
渡辺 憲	公益財団法人鳥取県医師会会長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 通報件数 (年 1 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 周知の方法
ホームページ (教職員専用) で公表

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 本院の最新医療情報や各部署等の取組み、そして地域からニーズのある情報を発信している。 ・ ホームページ：随時更新 ・ 広報誌「とりだい病院ニュース」：3回発行 ・ 広報誌「カニジル」：3回発行 ・ 外来担当医のご紹介：1回発行 ・ メディカルレター：6回程度発行 ・ 新聞特集：2回程度掲載 ・ ケーブルテレビ：医療番組を毎月放送 ・ 院外セミナー（メディカルセミナー）：2回開催 ・ 公式SNS(face book, twitter)：随時発信 ・ 診療科案内冊子：年1回発行 ・ 職種案内冊子：隔年発行	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 本院では、低侵襲外科センターにおいて、外科系各診療科の壁を越えて疾患に対応することはもとより、低侵襲手術の技術向上と教育を行っている、 また、脳とこころの医療センターにおいて、複数科にまたがる、あるいは複数科でみるべき疾患に対応しているほか、・褥瘡対策チーム、・緩和ケアチーム、・糖尿病医療支援チーム、・栄養	

サポートチーム、・感染対策チーム、・抗菌薬適正使用支援チーム、・転倒・転落予防チーム、
・生殖医療チーム、・呼吸サポートチーム、・ラピッドレスポンスシステム検討チーム、・早期
離床リハビリテーションチーム、・認知症ケアサポートチーム、・肝疾患サポートチーム、・摂
食嚥下リハビリテーションチームなど、複数診療科が連携し組織横断的に対応を行う体制を整備
している。